



付録

- 付録 A : サポート対象の変換機能 (1 ページ)
- 付録 B : サポート対象のクローン機能 (7 ページ)
- 付録 C : 移行設定 (10 ページ)
- 付録 D : プロキシ設定 (15 ページ)
- 付録 E : バックアップ/復元 (15 ページ)
- 付録 E : CLI を使用した管理オペレーション (16 ページ)
- 付録 G : サンプル使用例 (17 ページ)
- 付録 H : テクニカル サポート (20 ページ)
- 付録 I : フィードバックの送信 (21 ページ)

付録 A : サポート対象の変換機能

A. [UCS から IMM への変換でサポートされる機能 (Supported Features for Conversion from UCS to IMM)]

このセクションでは、IMM 移行ツールでの変換がサポートされている機能のリストと、Cisco UCS Manager/Central と Intersight 間のポリシーマッピングを示します。



-
- (注) UCS Central 設定に VLAN/VSAN エイリアシングが含まれている場合、IMM 移行ツールは vNIC/vHBA の変換を実行するときに、エイリアスの 1 つを自動的に選択します。結果の構成を慎重に見直して、適切であることを確認してください。
-

表 1: (I) UCS と Intersight 機能間の変換マッピング

UCS Manager/UCS Central 機能カテゴリ	ソース UCS Manager/UCS Central の機能名	同等の IMM ポリシー
Admin	通信サービス* ₃	SNMP ポリシー
	構成	Intersight の組織
	Syslog * ₄	Syslog ポリシー
	タイムゾーン管理	NTP ポリシー
	MAC アドレステーブルエージング	スイッチ制御ポリシー
	VLAN ポート数の最適化	スイッチ制御ポリシー
	インバンド プロファイル VLAN グループ	イーサネット ネットワーク グループ ポリシー
	インバンド プロファイル ネットワーク	IMC アクセスポリシー
	インバンド プロファイル IP プール名	IMC アクセスポリシー
	FC アップリンク トランッキング	VSAN ポリシー
	DNS * ₅	ネットワーク接続ポリシー

UCS Manager/UCS Central 機能カテゴリ	ソース UCS Manager/UCS Central の機能名	同等の IMM ポリシー
サーバーポリシーとシャーシポリシー	BIOS ポリシー	BIOS ポリシー
	起動ポリシー	ブートポリシー iSCSI スタティック ターゲット ポリシー
	ディスクグループポリシー	ストレージポリシー
	IPMI アクセス プロファイル	IPMI over LAN ポリシー
	iSCSI アダプタ ポリシー	iSCSI アダプタ ポリシー
	iSCSI ブート ポリシー	iSCSI ブート ポリシー
	KVM 管理ポリシー	仮想 KVM ポリシー
	ローカル ディスク 構成ポリシー *6	ストレージポリシー、SD カードポリシー
	QoS ポリシー	イーサネット QoS ポリシー / FC QoS ポリシー
	Serial over LAN ポリシー	Serial over LAN ポリシー
	サービス プロファイル	サーバプロファイル
	サービス プロファイル テンプレート *7	サーバプロファイル テンプレート
	保管プロファイル (Storage Profiles)	ストレージポリシー
	vMedia ポリシー	仮想メディア ポリシー
	vNIC/vHBA 配置ポリシー *8	LAN 接続ポリシー / SAN 接続ポリシー
	イーサネット アダプタ ポリシー	イーサネット アダプタ ポリシー
	フロー制御ポリシー	フロー制御ポリシー
	LACP ポリシー	リンク集約ポリシー
	LAN 接続ポリシー	LAN 接続ポリシー
	リンク プロトコル ポリシー	スイッチ制御ポリシー
	マルチキャスト ポリシー	マルチキャストポリシー
	ネットワーク制御ポリシー	イーサネット ネットワーク制御ポリシー
	ファイバチャネル アダプタ ポリシー	ファイバチャネル アダプタ ポリシー
	SAN 接続ポリシー	SAN 接続ポリシー
	ストレージ接続ポリシー	FC ゾーン分割ポリシー

UCS Manager/UCS Central 機能カテゴリ	ソース UCS Manager/UCS Central の機能名	同等の IMM ポリシー
プール	IP プール	IPプール
	IQN サフィックス プール	IQNプール
	MAC プール	MAC プール
	WWNN プール	WWNN プール
	WWPN プール	WWPN プール
	サーバー プール *9	リソースプール

次の表に、IMM 移行ツールでの変換がサポートされている UCS Manager 機能を示します。

表 2: (II) UCS Manager と Intersight 機能間の変換マッピング

UCS Manager 機能カテゴリ	ソース UCS Manager の機能名	同等の IMM ポリシー
ファブリック構成 *1	アプライアンス VLAN	VLAN ポリシー
	QoS システム クラス	システム QoS ポリシー
	VLAN グループ	イーサネット ネットワーク グループ ポリシー
	VLANs	VLAN ポリシー
	VSAN	VSAN ポリシー
	ストレージ VSAN *9	VSAN ポリシー
	LAN/SAN ピン グループ *10	LAN/SAN ピン グループ
ファブリック ポリシー *2	アプライアンス ネットワーク制御ポリシー	イーサネット ネットワーク制御ポリシー
	UDLD リンク ポリシー	リンク制御ポリシー

UCS Manager 機能カテゴリ	ソース UCS Manager の機能名	同等の IMM ポリシー
ポート ロール	アプライアンス ポート	ポート ポリシー
	アプライアンス ポートチャンネル	ポート ポリシー
	FCoE アップリンク ポート	ポート ポリシー
	FCoE アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	LAN アップリンクポート	ポート ポリシー
	LAN アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	SAN ユニファイドポート	ポート ポリシー
	SAN アップリンクポート	ポート ポリシー
	SAN アップリンク ポートチャンネル	ポート ポリシー
	サーバ ポート	ポート ポリシー
	FC ストレージ ポート *9	ポート ポリシー
	SAN ストレージポート *9	ポート ポリシー
	ブレイクアウト ポート *10	ポート ポリシー

*1：通常の VLAN と統合

*2：通常のネットワーク制御ポリシーと統合

*3：セッション/HTTP 設定は、Intersight 設定で定義されます。Telnet/SSH 設定はサポートされていません

*4：最大 2 つのリモート宛先サーバーのみをサポート

*5：UCS Manager では、[管理] > [通信管理] > [DNS 管理] の下にあります。

*6：ストレージポリシーに置き換わります。ローカルディスク構成ポリシーは、自動ポリシーオプションではなく手動作成のみをサポートします。

*7：テンプレートの更新のみ：初期テンプレートのサポートはありません（ただし、複製は可能です）

*8：配置は、次のマッピングで PCIe スロットに静的にマッピングされます。

- vCon 1：スロット MLOM
- vCon 2：スロット PCIe1
- vCon 3：スロット PCIe2
- vCon 4：スロット PCIe3

この配置は、変換の実行後に必要に応じて手動で調整できます。

*9 : IMM 移行ツール、リリース 1.0.2 以降でサポートされています。

*10 : IMM 移行ツール、リリース 3.0.1 以降でサポートされています。



(注) エイリアスされた VLAN/VSAN のエイリアスを含むテーブルは、変換がサポートされていません。

B.[変換のためのファブリックインターコネクト (FI) マッピング (Fabric Interconnect(FI) Mapping for Conversion)]

ポートポリシーが UCSM から IMM に変換されると、そのポリシーのポート構成は、次に示すように、サポートされていない FI (Cisco UCS 6200 および 6300 シリーズ) をマッピングすることによって調整されます。

表 3: ポートポリシー変換のための UCSM FI と IMM FI 間のマッピング

UCSM FI	同等の IMM FI
Cisco UCS-FI-6248UP	Cisco UCS-FI-6454
Cisco UCS-FI-6296UP	Cisco UCS-FI-6454
Cisco UCS-FI-6296	Cisco UCS-FI-64108
UCS-FI-M-6324	Cisco UCS-FI-6454
Cisco UCS-FI-6332	Cisco UCS-FI-6536
Cisco UCS-FI-6332-16UP	Cisco UCS-FI-6536
Cisco UCS-FI-6454	Cisco UCS-FI-6454
Cisco UCS-FI-64108	Cisco UCS-FI-64108
Cisco UCS-FI-6536	Cisco UCS-FI-6536



(注)

- ユニファイドポートのハードウェア特性が異なるため、Cisco UCS 6200 シリーズまたは Cisco UCS 6300 シリーズ FI から IMM に変換する場合、既存のユニファイドポートおよび SAN ポートの構成は無視されます。
- Cisco UCS-FI-6332-16UP から Cisco UCS 6536 への移行では、すべての SFP+ ポート構成が無視され、すべての QSFP+ ポート構成が 16 ポート左にシフトされます (Cisco UCS-FI-6332-16UP のポート 1/17 は Cisco UCS-FI-6536 のポート 1/1 になります)。

付録 B : サポート対象のクローン機能

[Intersight アカウントのクローニングでサポートされる機能 (Supported Features for Cloning an Intersight account)]

このセクションでは、UCSサーバー、シャーシ、およびドメインポリシーのリストと、Intersight アカウントのクローン作成でサポートされるプロファイル、プール、リソース、設定、およびテンプレートのリストを提供します。



-
- (注)
- Intersight アカウントのクローニングは、スタンドアロン モードおよび Intersight 管理モードの構成でのみサポートされます。
 - 送信元 Intersight アカウントで要求されたターゲット デバイスは、クローニング時に接続先 Intersight アカウントに移動されません。
-

表 4: Intersight アカウントのクローニングでサポートされる機能

機能カテゴリ	サポートされる機能
UCS サーバ ポリシー	アダプタの設定
	BIOS
	ブート順序
	証明書管理
	デバイス コネクタ
	イーサネットアダプタ
	イーサネット ネットワーク
	イーサネットネットワーク制御
	イーサネット ネットワーク グループ
	イーサネットQoS
	[FC Zoning]
	ファイバチャネルアダプタ
	ファイバチャネルネットワーク
	ファイバチャネルQoS
	IMCアクセス
	IPMI over LAN
	iSCSI アダプタ
	iSCSI ブート
	iSCSI 静的ターゲット
	LAN の接続
	LDAP
	ローカルユーザー
	ネットワーク接続
	NTP
	永続的なメモリ
	電力
	SAN接続
	SDカード
	Serial over LAN

機能カテゴリ	サポートされる機能
	SMTP
	SNMP
	SSH
	ストレージ
	Syslog
	仮想 KVM
	仮想メディア
UCS ドメイン ポリシー	フロー制御
	リンクアグリゲーション
	リンク制御
	マルチキャスト
	ポート
	スイッチ制御
	システムQoS
	VLAN
	VSAN
UCS シャーシ ポリシー	サーマル
プール	IP
	IQN
	MAC
	技術情報
	UUID
	WWNN
	WWPN
プロファイル	UCSサーバプロファイル
	UCSシャーシプロファイル
	UCSドメインプロファイル
テンプレート	UCSサーバー プロファイル テンプレート

機能カテゴリ	サポートされる機能
アクセスと権限設定	ユーザー *1
	グループ *1
	ロール *1
	構成
	リソース グループ

*1 : [Intersight 設定のトリミング (Trim Intersight Settings)] オプションが設定されていない場合にのみクローニングされます。デフォルトでは、オブジェクトはクローニングされません。



- (注)
- 証明書管理ポリシーを持つ Intersight アカウントをクローニングしているときに、自己署名証明書が生成され、Intersight にプッシュされます。
 - パスワードを含むポリシーは、自動生成されたパスワードを使用してクローニングされません。

付録 C : 移行設定

(I) [変換の移行設定 (Transition Settings for Conversion)]

以下は、IMM 移行ツールの [移行設定 (Transition Settings)] ページにある変換オプションです。これらのオプションを設定/設定解除して、遷移の動作を制御できます。

1. ファブリック ポリシーの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。有効にすると、UCS ファブリック構成は同等の Intersight ポリシーに変換されます。
- 有効にすると、以下が変換されます。
 - VLAN / VLAN グループ / VSAN
 - FI ポートの構成
 - UCS ドメイン設定 (NTP、DNS、Syslog、SNMP、システム QoS、およびスイッチ制御ポリシー)



- (注) ファブリック ポリシーの変換は、UCSM でのみサポートされています。

1. ファブリック ポリシー名

変換後のファブリック ポリシー (VLAN、VSAN、ポート ポリシー) の名前を示します。変換されたポリシーに**手動**の名前を指定するか、変換後に UCS ドメイン名を保持することを選択できます。

2. ファブリック ポリシーの対象組織名

ファブリック ポリシーが属する組織の名前を示します。組織の**手動**名を指定するか、変換後に UCS ドメイン名を保持することを選択できます。

3. 常に個別の VLAN ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別の VLAN ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールでファブリック A と B に対して単一または個別の VLAN ポリシーを作成するかどうかを決定します。

4. 常に個別の VSAN ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別の VSAN ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールでファブリック A と B に対して単一または個別の VSAN ポリシーを作成するかどうかを決定します。

5. 常に個別のポート ポリシーを作成する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、ファブリック A と B に対して個別のポート ポリシーが作成されます。無効にすると、ツールは、ファブリック A と B に対して単一または個別のポート ポリシーを作成するかどうかを決定します。

2. サーバー ポリシーの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、選択したサーバー ポリシー/プール/プロファイル/テンプレートが同等の Intersight ポリシー/プール/プロファイル/テンプレートに変換されます

1. サービス プロファイルの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- サービスプロファイルの変換が有効になっている場合、ユーザーは [プロファイル/テンプレート (Select Profiles/Templates)] 手順で変換するプロファイルを選択できます。
- 有効にすると、次の識別子が維持されない場合があります。
 - IP

- MAC
- IQN
- UUID
- WWN

2. グローバル サービス プロファイルの変換

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、選択したグローバルサービスプロファイルが同等の Intersight サーバープロファイルに変換されます。



(注) この変換は UCSM にのみ適用されます。

3. [アイデンティティの保存 (Preserve Identities)]

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、UCS から IMM へのサービスプロファイルの変換中に、IP、IQN、MAC、UUID、WWPN、WWNN などの構成アイデンティティが保持されます。

4. vNIC/vHBA オーダーに vCon 配置情報を使用

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、vNIC/vHBA は、ソース vCon に応じて異なる PCIe スロットに静的にマッピングされます。
- vCon any、1: 「PCIe MLOM」、vCon2: 「PCIe スロット 1」、vCon3: 「PCIe スロット 2」 および vCon4: 「PCIe スロット 3」。
- 無効にすると、すべての vNIC/vHBA が PCIe スロット 「MLOM」 にマップされます。

5. 長い組織名 (>17 文字) を自動的に変更する

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、17 文字を超える組織名が自動生成された名前に変更されます。これにより、組織名と QoS ポリシーを合わせた長さが 40 文字を超える場合のエラーを防ぎます。

6. UCS Central タグの変換

- このオプションは、デフォルトで有効です。

- 有効にすると、プール、ポリシー、およびプロファイル/テンプレートに割り当てられた UCS Central タグが変換され、準備状況レポートの対応する Intersight オブジェクトの「変換された UCS Central タグ」行で簡単に表示できます。



- (注)
- この変換は、UCS Central にのみ適用されます。
 - さまざまなタグ値を持つ UCS Central タグ タイプの重複を Intersight にプッシュすることはできません。これは、Intersight がタグキーの重複を許可していないためです。ただし、最初の発生は Intersight にプッシュされます。

7. UCS Central タグ プレフィックス

IMM 移行ツール、リリース 3.1.1 は、UCS Central タグへのプレフィックスの追加をサポートしています。変換されたタグに**手動**プレフィックスを指定するか、変換後にデフォルトのプレフィックスを選択することができます。



- (注) この変換は、UCS Central にのみ適用されます。

3. 変換されたオブジェクトに自動的にタグを付ける

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、Intersight オブジェクトは「imm_transition_version": "3.0.1」、
「imm_transition_name": "transition_name」、
「source_device": "source_device_name」でタグ付けされます。
- [+ 新規を追加]** ボタンをクリックし、**キーと値**のペアを入力することで、新しいタグを追加できます。
- 既存のタグは変更および削除できます。
- キーが「imm_migration_version」および「imm_transition_name」のタグは変更できませんが、削除できます。
- すべてのタグには一意のキーが必要ですが、値は複製できます。
- 同じキーと値のペアを持つ重複タグは許可されていません。

4. 既存の Intersight オブジェクトを上書きする

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、同じ名前とタイプのオブジェクトが組織に既に存在する場合、既存の Intersight オブジェクトは上書きされます。無効にすると、既存のオブジェクトは変更されません。

5. 変換されたポリシーのデフォルトパスワード

デフォルトのパスワードは、仮想メディア、iSCSI ブート、IPMI over LANなど変換されている UCS Manager/Central ポリシーで、既存のパスワードの代わりに使用されます。このパスワードは、ツールのインストール中に自動生成されます。このパスワードは、変換されたポリシーが Intersight にプッシュされた後、ユーザーがリセットする必要があります。

6. iSCSI 相互チャップ認証のパスワード

このパスワードは、iSCSI ブートポリシーの相互 CHAP 認証に使用されます。変換されたポリシーのデフォルトパスワードとは異なる必要があります。

(II) [クローニングの移行設定 (Transition Settings for Cloning)]

以下は、IMM 移行ツールの [移行設定 (Transition Settings)] ページにあるクローニングオプションです。これらのオプションを設定/設定解除して、遷移の動作を制御できます。

1. 既存の Intersight オブジェクトを上書きする

- このオプションは、デフォルトで無効です。
- 有効にすると、同じ名前とタイプのオブジェクトが送信元組織に既に存在する場合、接続先 Intersight 内の既存のオブジェクトは上書きされます。

2. [Intersight 設定のトリミング (Trim Intersight Settings)]

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、ユーザーグループ、ユーザー、ロールなど、一部の Intersight 設定がクローニング中にトリミングされます。

3. [アイデンティティの保存 (Preserve Identities)]

- このオプションは、デフォルトで有効です。
- 有効にすると、すべての UCS サーバー プロファイルで割り当てられた ID を保持しながら、Intersight アカウントを複製できます。

(III) [変換のデフォルト移行設定 (Default Transition Settings for Conversion)]

ツールで作成されたすべての新しい移行に適用されるデフォルト構成を設定できます。[デフォルト移行設定 (Default Transition Settings)] オプションは、右上隅の [設定 (Settings)] の下にあります。このオプションを使用して、変換されたポリシーのデフォルトパスワードを設定/リセットすることもできます。

デフォルトのトランジション設定で定義されたカスタムタグは、すべてのトランジションに適用されます。

付録 D : プロキシ設定

IMM 移行ツール 3.1.1 には、デバイス レベルでプロキシ設定を有効または無効にするオプションがあります。[プロキシを使用] トグル ボタンを使用して、各デバイスのプロキシ設定を個別に有効化/無効化できます。デバイスで [プロキシを使用] が有効になっている場合、デバイスへの接続にプロキシ設定が使用されます。

プロキシ設定は、[プロキシ設定] ページで構成できます。

プロキシ設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [プロキシ設定 (Proxy Settings)] をクリックします。
2. [プロキシホスト名 (Proxy Hostname)] または [IP] を入力します
3. プロキシポート番号を入力します。
4. プロキシ設定で認証が必要な場合は、[認証 (Authentication)] を切り替えてオンにするか、手順 7 に進みます。
5. ユーザ名を入力します。
6. パスワードを入力します。
7. [保存 (Save)] をクリックします。

プロキシ設定が保存されます。



- (注)
1. 移行中の場合、プロキシ設定の変更はできません。
 2. [プロキシを使用] トグル ボタンを
 - [デバイス管理] ページでデバイスを追加している間に有効にすることができます。
 - IMM 移行の追加手順で新しいソース UCS デバイス/Intersight アカウントを追加します。

付録 E : バックアップ/復元

IMM 移行ツール、リリース 3.1.1 は、ツールからデータをバックアップし、ツールの同じインスタンスまたは別のインスタンスに復元する機能を備えています。

バックアップコンテンツを復元するには、次の手順を実行します。

1. 右上隅の歯車アイコンの下にある [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] をクリックします。
2. バックアップ データを暗号化するための秘密キーを入力します。

3. [Download] をクリックします。
データは圧縮ファイルでダウンロードされ、ローカル システムに保存されます。
4. データを復元する必要がある場合は、ツールのインスタンスにログインします。
5. 右上隅の歯車アイコンの下にある [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] をクリックします。
6. [復元 (Restore)] タブに移動します。
7. データのバックアップ時に使用したのと同じキーを入力します。
8. バックアップデータを含む、システムにダウンロードされたファイルを参照して選択します。
9. [復元 (Restore)] をクリックします。
ファイルに存在するデータが復元されます。



- (注)
- データを復元すると、ツールの既存のデータがすべて削除され、圧縮ファイルに存在するデータに置き換えられます。
 - データは、ツールの下位バージョンから上位バージョンにのみ復元でき、その逆はできません。
 - 移行が進行中の場合は、バックアップ/復元アクションを開始できません。

付録 E : CLI を使用した管理オペレーション

(I) [詳細構成設定の編集 (Edit the Advanced Configuration Settings)]

次の手順を実行して、詳細構成設定用に `convert_options.json` ファイルを編集できます。

1. VM に SSH 接続します。
2. `~/imm-migration/config/convert/convert_options.json` を好みに合わせて編集します。



- (注) IMM 移行ツールで使用できるさまざまな移行設定については、「[付録 C : 移行設定](#)」を参照してください。

(II) [/etc/hosts ファイルの編集 (Edit the /etc/hosts File)]

`host` コマンドを使用して、`/etc/hosts` ファイルを編集できます。

```
hosts [options...] -- Command to update the hosts file
options:
  add :adds the host to host file
  remove :remove the host from the host file
  list :lists the host in the host file
example:
  add:    $ sudo hosts add 1.2.3.4 localhost
  remove: $ sudo hosts remove 1.2.3.4 localhost
  list:   $ sudo hosts (or) sudo hosts list
```

(III) [IMM 移行ツール VM の IP アドレスを変更する (Change the IP Address of the IMM Transition Tool VM)]

IMM 移行ツール VM の IP アドレスを変更するには、次の手順を実行します。

1. VM に SSH 接続します。
2. 以下のコマンドを使用して、`/etc/network/interfaces` ファイルを編集します。

```
$ sudo vi /etc/network/interfaces
```
3. 必要に応じて、IP、ネットマスク、ゲートウェイ、および DNS フィールドを変更します。
4. ファイルを保存します。
5. 次のコマンドを使用して VM を再起動します。

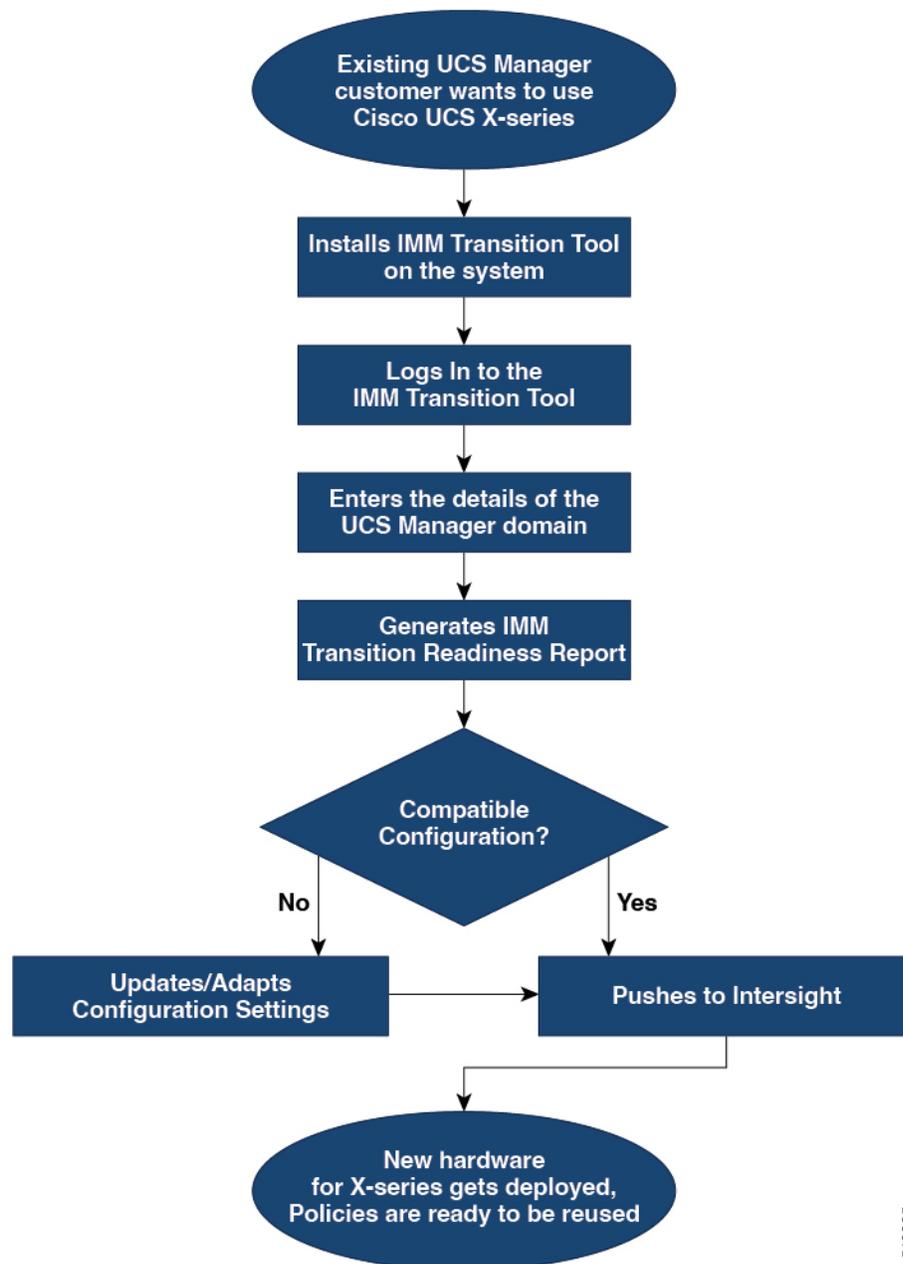
```
sudo reboot
```

付録 G : サンプル使用例

(I) UCS X シリーズの展開の拡張

ファブリック インターコネクトは UCS X シリーズをサポートする際、Intersight 管理モードで動作します。Cisco UCS Manager を使用していて、UCS X シリーズを使用する場合は、IMM に移行する必要があります。この移行

- 既存のサービスプロファイルテンプレートを Intersight に拡張します。
- ブート、BIOS、LAN/SAN 接続など、関連するサーバーポリシーを自動的に変換します。
- VLAN / VSAN、ポート構成などのファブリック構成を変換します。



540025

次の手順を実行して、既存の UCS Manager ドメイン オブジェクトを Intersight オブジェクトに変換します。

始める前に

システムは、[前提条件 \(Prerequisites\)](#) セクションに記載されている前提条件を満たしている必要があります。

ステップ 1 システムに Cisco IMM 移行ツールをインストールします。

Cisco Intersight マネージド モード移行ツールのインストールに記載されているインストール手順に従います。

- ステップ2 IMM 移行ツールにログインします。
- ステップ3 UCS Manager ドメインの詳細を入力します。
- ステップ4 準備状況レポートを生成して、移行の互換性を確認します。
- ステップ5 a) 互換性がない場合は、構成設定を更新します。
b) 互換性がある場合は、変換された構成を Intersight にプッシュします。

次のタスク

新しいハードウェアが展開されます。UCS Manager ドメインのソフトウェア構成、および既存のポリシーを再利用する準備ができています。どこからでも Cisco UCS X シリーズシステムを監視し、サーバー全体でポリシー ベースの管理を実行できるようになりました。

この移行を実行する手順については、「[変換のための IMM 移行の追加](#)」を参照してください。

(II) UCSM から IMM へのプロファイルの移動

IP アドレス、MAC アドレス、IQN、UUID、WWNN、および WWPN は、物理サーバーがサーバー プロファイルから取得する一般的な識別子です。識別子は、サーバー プロファイルによる変換中に予約および参照できます。予約済み識別子の一般的な使用例は、ストレージアクセス (ゾーン分割) を維持するために、UCSM から IMM への移行中に WWPN が確実に保持されるようにすることです。

IMM 移行ツール 3.0.1 には、UCSM から IMM への変換時に構成識別子を保持する機能があります。この追加された機能により、サーバー プロファイルを移動したり、物理サーバーを UCSM から IMM に移行したりできるようになりました。



- (注) WWNN/WWPN/UUID/MAC 識別子は、作成されるとすぐに変換されたプロファイルに割り当てられるため、[プール (Pools)] ビューの [予約された識別子 (Reserved Identifiers)] に表示されません。ただし、サーバープロファイルが展開されるまで、IP および IQN 識別子は [予約済み識別子 (Reserved Identifiers)] の下に表示されます。これは、IP および IQN 識別子の場合、割り当てはプロファイルの作成時ではなく、プロファイルの展開段階で実行されるためです。プロファイルが展開されると、予約は引き続き優先され、識別子は UCSM/Central で使用されたものと一致します。

プロファイルを UCSM から IMM に移動するには、次の手順を実行します。

始める前に

システムは、[前提条件 \(Prerequisites\)](#) セクションに記載されている前提条件を満たしている必要があります。

ステップ 1 システムに Cisco IMM 移行ツールをインストールします。

[Cisco Intersight マネージド モード移行ツールのインストール](#) に記載されているインストール手順に従います。

ステップ 2 IMM 移行ツールにログインします。

ステップ 3 送信元 UCS デバイスと接続先 Intersight アカウントの詳細を入力します。

ステップ 4 [移行設定 (Transition Settings)] ページで [アイデンティティの保持 (Preserve Identities)] オプションが有効になっていることを確認します。

ステップ 5 変換して Intersight に移行する必要があるプロファイルを選択します。

ステップ 6 送信元 UCSM と接続先 Intersight 組織をマッピングします。この手順は任意です。

ステップ 7 準備状況レポートを生成して、移行の互換性を確認します。

ステップ 8 a) 互換性がない場合は、構成設定を更新します。

b) 互換性がある場合は、変換された構成を Intersight にプッシュします。

次のタスク

UCSM サーバー プロファイルは、同じ識別子のセットを保持する IMM サービスプロファイルに変換されます。

この移行を実行する手順については、「[変換のための IMM 移行の追加](#)」を参照してください。

付録 H : テクニカル サポート

サポートが必要な場合は、ログファイルをテクニカル チームと共有できます。

クエリを送信するには、次の手順を実行します。

1. すべての遷移レコードを表示するリスト ビューに移動します。
2. テクニカル サポートが必要な移行レコードまでスクロールします。
3. レコードに対して [...] をクリックします。
4. [ログのダウンロード (Download Logs)] をクリックします。
5. ログファイルをコンピュータに保存します。
6. 保存したログファイルを電子メールに添付し、クエリ / フィードバックを含む電子メールを imm-transition-feedback@cisco.com グループに送信します。
<mailto:imm-transition-feedback@cisco.com>

付録I: フィードバックの送信

右上隅にある [フィードバック (Feedback)] を使用して、ツールに関するフィードバックを提供するか、不足している機能に関する情報を提供します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。